

## 水道の水はどこから送られてくるか？

4年4組は、社会科でこんな学習をしていました。

水道の蛇口→送水管→浄水場→淀川→・・・までさかのぼったところで、ある子どもが「桂川」と答えました。予定では、次は「琵琶湖」で一件落着のはずです。さあ、先生はどうするかな？と思って見ていました。

淀川は滋賀県では瀬田川、京都府では宇治川、その後、木津川、淀川と名前を変えていきます。桂川は木津川と大山崎付近で合流しやがて淀川となります。川は通過する場所で名前が変わったり、合流して名前がなくなったりします。そんなところも学習させるのかな？

先生は、教え込むことなく、地図帳を広げさせて大山崎付近を調べさせ始めました。子どもたちからは、「桂川、ちっちゃい。」とか「たくさんの川が集まって淀川になっている。」とか「川は合流して大きな川になっていく。」などの意見が出されました。今は、これで十分かもしれません。

「淀川の前は琵琶湖」と言い切ってしまうても間違いではありませんが、地図をみんなで見たりするなかで、いろいろと発見させているところがいいなあと思いました。続いて先生が「昨日、テレビで大雨のニュース見た？」とたずねると「あれ、桂川。」と子どもの声。「あ～、あの川。」と続き、印象に残る学習になりました。

## 星の動き

おとなりの4年3組は理科の授業でした。夏の大三角やいろいろな星座の話になっていました。いろいろな星座の名前もよく知っていて、「髪の毛座」「コップ座」など、みんなびっくりの名前を発表する子どももいました。持っている本も「なぜ？どうして？宇宙のお話」などという本ですから、よく知っているはずです。10月には社会見学(理科見学?)でプラネタリウムを見に行くそうです。しっかりとした学習目的を持っていく社会見学。いい社会見学になりそうですね。

授業を見ながら若い頃を思い出しました。十数年前、夜になって子どもたちを集めて星空観察会をしました。(野犬が出るからという理由で1回きりの観察会になってしまいましたが・・・)北部の田園地帯の学校でしたから、夜は照明が少なく、空気も澄んでいたからでしょうか、とてもよく星が見えました。恥ずかしながら、私自身がはくちょう座を見たのはそれが初めてでした。教科書や図鑑でしか見たことのなかった私。「はくちょう座って、めちゃくちゃ大きいなあ。」これが私の第一印象でした。教科書は小さいですからね。とても感動したことを思い出しました。

今、本物を見ようと思うとかなり山奥へ行かなければならないかもしれません。機会があれば、是非、本物体験をさせてやってほしいと思います。

## 生まれ変わる図書室

図書室が生まれ変わりました。夏休みの間に図書ボランティアのみなさんが、どうすれば子どもたちにとって本が読みやすい図書室になるかを職員といっしょに考えてくださいました。本の配列だけでなく、いろいろな装飾もつくったり、読み聞かせのスペースをつくったりと工夫満載の図書室で、尼崎でもトップクラスの図書室にしようと考えています。今日からの初めての図書の時間は、図書室めぐりから始まるそうです。子どもたちの楽しそうな顔が楽しみです。